

【専攻科授業科目概要 例】

授業科目名		単位	講義概要
教養科目系	実用英会話	2	In this course students will practice the four skills: listening, reading, writing and speaking. Students will learn how to communicate in different situations in a fun way.
	日本文化学	1	【書道】日本・中国の文字の形の変遷を毛筆を使って体験しながら書道文化を学習する。 【華道】生け花の道具や花材の扱い方、基本の花型を理解しながら花をいけることを学ぶ。先人達から伝統的に受け継がれた花や現代のアレンジ花も生ける。
	経営学	1	これまでの医療機関経営は、様々な点で一般企業とは異なる経営が行われてきた。例えば、診療報酬自体を例にとってみても、その価格は国により定められており、一般企業のように市場原理による価格決定メカニズムが働いていません。しかし、今後は医療機関も、自費診療の拡大など、診療報酬体系にも変革が進展すると考えられます。また実際に医療機関間の競争も激化してきており、従来の方式の経営で、患者の訪れを待つという姿勢では経営が立ち行かなくなっています。こうした状況の下で、医療機関が生き残るためには、医療機関を一つの経営体として捉えて、民間の企業的な経営センスを導入することが極めて重要です。本講義では、経営学の全体像、基礎的な経営戦略論、組織論、マーケティング理論を医療機関との関係性の中で学んでいきます。
	学習科学	2	ヒトは学ぶことによって人になる。人になるためには学習という営みがどうしても欠かせない。学習については誰もがそれなりに知っている。しかし、それは漠然としたもので、学習はなぜ必要か、どのような仕組みで成り立ち、どういう意義があるのかまでは思いもよらない。本講義では、学習について科学的側面からも学ぶことにより、学習について幅広い知識と視点を持ち、社会の中で自ら主体的に学び続けることの重要性を知る。
	科学、社会、人間	2	現代社会では、我々は高度に発達した科学や科学技術と無関係に生活できなくなっている。その成果は人間生活（社会）に利便性や豊かさをもたらしたが、反面では、環境問題、エネルギー問題、生命倫理上の問題など、地球や人類を持続していくために解決すべき課題を多く生み出している。この講義では「科学的なものの見方」「科学的な考え方」で現代社会における諸課題について考え、科学だけでは答えることのできない問題（トランス・サイエンス）があることを知る。そして、科学的リテラシーをもって、社会を構成する市民として価値判断や意志決定をし、適切に行動することの重要性を知る。
	法学入門	2	法体系の仕組み、日本国憲法の概要解釈や基本的人権規定に関する論点を、時事関連問題を参考に問題点と今後の課題に対する認識を深める。 また、医療技術者に必要な保健衛生関連法規の理解と把握、並びに職務遂行に伴う法的責任について理解を深める。
	文章力を磨く	2	伝えたいことが読み手に伝わる文章を書くための方法を学ぶ。授業では小論文、レポートを中心に論理的な構造を踏まえた文章を書けるように、演習を行い文章力を磨く。
	組織マネジメント	2	本講義では組織マネジメントの基礎として、まずコーチングについて学ぶ。コーチングは、いま「個人が学ぶスキル」から「組織改革の手段」へとその活用場が広がっている。組織改革に不可欠な要素の1つがリーダーシップであり、リーダーシップを向上させることでリーダーを起点として組織全体に働きかけ、組織改革を行うことができる。また、後半は、組織の経営資源である“人”“モノ”“金”“情報”のうち、特に“人”に起因する“関係性の質”に注目する。一般的な組織マネジメントを学習するとともに、コーチングを用いて、“関係性の質”を上げる声掛け、目標の明確化、気づきの促進などの具体的な方法を学ぶ。
地域創生学	1	個人の生活・活動空間から地域全体に視野を広げ、様々な人が、様々な状況で、様々な思いを考えて、生活・活動していることに目を向ける。地域創生とは何かを考え、具体的なテーマについて現状を把握し、理想の未来を描き、それを実現する鍵を探る未来志向の計画作成手法を学ぶ。自分と地域に向き合い、仲間や行政、企業の方々と連携しながら、自分の役割を見出す。	
基礎科目系	臨床体表解剖学	1	教育の歴史、教育に関わる様々な思想、それらの実践例をとおして、教育の哲学、制度、教育の目的と使命についてその概要を理解する。特に19世紀以降の公教育制度の構築と展開を中心に近代社会における「教育」の意味を考える。
	病態運動・生理学	1	人間の身体運動・動作を科学的にとらえるため、神経と骨格筋の情報伝達における病態生理学を学ぶ。

	臨床発達障害学	1	正常運動発達を中心に乳幼児の正常発達の理解を深める。また、正常発達過程から発達障害児の運動障害・生活障害を検討する。さらには年齢を経るに従い日常生活活動（ADL）を狭小化させる二次障害についても学ぶ。
運動機能障害系	運動器系障害 リハビリテーション論	1	理学療法・作業療法と関連する運動障害に伴う症状とその原因、および関連研究を学ぶ。
	内部疾患系障害 リハビリテーション論	1	呼吸器疾患、循環器疾患の発生要因や病態、治療内容を把握し急性期や回復期および維持期における障害像から、治療的ならびに予防的な理学療法の介入方策を学ぶ。
	スポーツ障害 リハビリテーション論	1	スポーツ外傷や障害の基本的知識を学び、文献抄読などを通して最新のスポーツ障害に対するリハビリテーション知識を身につける。基本的に前半は講義、後半は課題として文献抄読し、フィールドワーク課題を実施する。
生活機能障害系	中枢神経系障害 リハビリテーション論	1	中枢神経疾患の病態、障害像、機能回復に関わるメカニズムを学習する。運動障害、認知機能障害に関する生活活動における問題点の分析と、より効率的な理学療法・作業療法を学習する。
	地域・老年期 リハビリテーション論	1	地域リハビリテーションという幅広い概念の中で、特に高齢期を対象としてその身体・精神面での特性を知り、包括的なリハビリテーション支援を必要とする人々への援助方法などを学習する。
	精神機能系障害 リハビリテーション論	1	精神科分野におけるリハビリテーションの意味を理解するために、これまでの精神科作業療法の理論を歴史に沿って説明する。また、臨床でいかにその理論を応用するのか事例を通して理解する。本講義の対象となる理論は、作業療法の理念、発達モデル、人間作業モデル、精神力動モデル、認知能力障害モデルである。
	生活環境 リハビリテーション論	1	リハビリテーションにおける生活環境への適応の行動理論を学ぶ。人間と環境をつなぐ交流理論の歴史、理学療法や作業療法で用いることのできる理論や概念、生態心理学での考え方などを比較検討しながら、臨床における生活環境、家族・社会集団環境、居住環境などの調整に応用できるようにする。
リハビリテーション管理	応用臨床心理学	1	病気や障害、またはライフサイクルにおける様々な経験によって起きる心理的問題に対する、臨床心理的援助の実際について学ぶ。
	医療福祉行政学	1	少子高齢社会の日本で目まぐるしく変化する医療行政、社会福祉行政に関して、その歴史、各国の制度を研究し、理学療法士・作業療法士に必要な日本の医療福祉行政のあり方について考える。
	医療情報学	1	リハビリテーション科学に関する問題解決を支援する情報のあり方を追求する。情報を「つくる・伝える・使う」の視点で捉え、より望ましい環境の整備を推進する研究と実践に取り組む。その対象は医療者だけでなく、患者・介護者・支援者などの医療関係者全般を含む。また、個人から社会レベルの意思決定の支援を想定している。
リハビリテーション科学研究	研究法演習	1	研究とは何かを理解することを目的に文献の抄読を行う。文献の検索、抄読、討論の過程で現在までに何が分かっているか、何を明らかにするかを明確にし、研究方法、過程、研究に関わる諸問題について学習する。
	リハビリテーション科学研究Ⅰ	5	各教員個別の指導により、研究目的や問題のたて方、研究の計画と実施の方法、論文の作成と発表のしかた、研究倫理について学び、研究の基礎的方法論を修得する
	リハビリテーション科学研究Ⅱ	5	各教員個別の指導により、研究目的や問題のたて方、研究の計画と実施の方法、論文の作成と発表のしかた、研究倫理について学び、研究の基礎的方法論を修得する